

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	理学療法概論			担当講師	長谷川 聡		
分 野	専門	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	前期
概 要	学療法 の 概念、定義、リハビリテーション医学・医療の歴史を通じて、日本における理学療法士の役割についての専門職としての理念、役割を考える基盤を得る。						
到達目標	1. 理学療法 の 定義について説明できる 2. 理学療法 とリハビリテーションの 違いについて説明できる 3. 理学療法、理学療法 学 の 学 問 的 範 疇 ならびにその 広 がりについて説明できる 4. 理学療法 士 としてのアイデンティティについて説明できる 5. 医療および理学療法 をとりまく倫理的課題を把握できる 6. 生命倫理について説明できる 7. 臨床倫理について説明できる 8. 医療および理学療法 の 倫理に関する規範・原則を説明できる 9. 倫理原則を遵守して実践できる 10. 対象者の基本的権利を理解し説明できる 11. 自己決定権の意義を踏まえながら対応できる 12. インフォームド・コンセントの意義と必要性を理解できる 13. 医療および理学療法 の 歴史的な流れとその意味を説明できる 14. 理学療法 士 に求められるさまざまな役割、法的義務について説明できる 15. 社会背景、多様な個人の価値観を認識し柔軟に対応できる 16. 状況に応じて説明責任を果たすことができる 17. 情報管理の必要性について説明できる 18. 知り得た情報の発信、記録、保存に関して、情報漏洩などのリスク管理ができる 19. キャリアパス、キャリア開発の概念について説明できる 20. 社会と理学療法 の 関 連 性 について理解し、個々のキャリアパスの検討に活用することができる						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	理学療法と倫理						
2	理学療法 学 教育						
3	理学療法 の 歴史						
4	理学療法 士 を取り巻く法令制度						
5	理学療法 の 基盤						
6	理学療法 の 学 問 的 体 系 化 と 研 究 法						
7	理学療法 の 対 象 と 治 療 手 段						
8	理学療法 の 役 割 と そ の 職 域						
9	理学療法 部 門 における管理						
10	理学療法 士 の 組 織 と 活 動						
11	理学療法 士 としての適性と資質						
12	理学療法 と 心 理 ・ メ ン タ ル ヘ ル ス へ の 対 応						
13	地域理学療法 学						
14	理学療法 の 職 域 開 拓						
15	筆記試験						
評価方法	筆記試験に基づいて学修成果を判定する。						
教科書	理学療法 概 論 第 7 版						
参考書	適宜、資料等を提供する場合あり。						
備 考	※しっかりと自己学習（復習）してください。						

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	基礎運動学Ⅰ			担当講師	高倉 秀暢		
分野	専門	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	前期
概 要	身体運動の基本をなす力学・解剖学・生理学を踏襲した上で、体力、運動処方、姿勢、歩行、運動発達、運動学習、バイオメカニズムについて学ぶ。						
到達目標	リハビリテーション医学を学ぶ上で必須となる身体運動に関する知識を深める。 1. 運動のメカニズムを理解し、説明できる。 2. 関節運動の種類と特徴が説明できる。 3. 筋収縮の種類と理論が説明できる。 4. 基本的な運動分析が行える。 5. 正常歩行の内容を理解し、異常歩行の説明ができる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	歴史及び運動学とは、運動の仕組み及び運動学用語の説明						
2	細胞・組織・器官の構造と働き、筋線維・神経細胞						
3	骨の構造と機能、関節の構造、腱・靭帯の構造と機能						
4	筋の解剖、筋収縮のメカニズム、神経筋接合部						
5	上肢帯：神経・関節、肩甲骨						
6	肩関節の運動学						
7	上腕の筋と運動						
8	肘の解剖と運動学、前腕の筋と解剖						
9	手関節・手指の運動学						
10	股関節の運動学、大腿の筋・作用						
11	膝関節の運動学						
12	足部の運動学						
13	脊柱の運動学、胸部の運動学、腰部・腹部の解剖と運動学						
14	顔面の解剖と運動学、声門の開閉、眼の運動学						
15	筆記試験						
評価方法	筆記試験にて評価する						
教科書	基礎運動学第6版補訂 医歯薬出版						
参考書	筋骨格系のキネシオロジー原著第3版 医歯薬出版						
備 考							

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	基礎運動学Ⅱ			担当講師	加藤 仁志、山神 翔太		
分野	専門	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	46 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	身体運動の基本をなす力学・解剖学・生理学を踏襲した上で、体力、運動処方、姿勢、歩行、運動発達、運動学習、バイオメカニズムについて学ぶ。						
到達目標	1. 生体力学、バイオメカニクスの基礎について説明できる。 2. 体力と運動処方について説明できる。 3. 基本動作の種類（寝返り、起き上がり、立ち上がり、歩行）について説明できる。 4. 基本動作のメカニズムについて説明できる。 5. 活動（運動）を実行する上で必要となる姿勢制御・運動制御の理論的背景について説明できる。 6. 随意運動の制御システムについて説明できる。 7. 運動発達の基礎について説明できる。 8. 運動学習理論について説明できる。 9. 運動学習の過程とそのモデルについて説明できる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	ガイダンス
2	生体力学の基礎①
3	生体力学の基礎②
4	体力と運動処方①
5	体力と運動処方②
6	姿勢①
7	姿勢②
8	歩行①
9	歩行②
10	歩行③
11	歩行④
12	小テスト
13	動作分析①
14	動作分析②
15	動作分析③
16	運動発達の基礎①
17	運動発達の基礎②
18	姿勢制御と運動制御①
19	姿勢制御と運動制御②
20	姿勢制御と運動制御③
21	運動学習①
22	運動学習②
23	期末テスト

評価方法	出席、筆記試験等を加味し総合的に評価をする。
------	------------------------

教科書	基礎運動学第6版補訂 医歯薬出版 標準理学療法学 運動療法学総論第4版 医学書院
参考書	運動療法学 金原出版 運動学習理論に基づくリハビリテーションの実践第2版 医歯薬出版
備考	

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	運動学Ⅱ			担当講師	加藤 仁志		
分野	専門	授業方法	講義	実務経験	理学療法士として実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	前期
概 要	運動学における各分野の特徴を学修する。前半は骨・関節運動学に関して、後半は主に臨床で行われている運動学的技法（動作解析、トルク測定など）に関して実習を行う。						
到達目標	運動学で学んだ知識を、実習を通じて理解・習得する。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	オリエンテーション、骨模型を用いた骨・筋、および関節運動学を学ぶ（1）
2	骨模型を用いた骨・筋、および関節運動学を学ぶ（2）
3	骨模型を用いた骨・筋、および関節運動学を学ぶ（3）
4	骨模型を用いた骨・筋、および関節運動学を学ぶ（4）
5	骨模型を用いた骨・筋、および関節運動学を学ぶ（5）
6	骨模型を用いた骨・筋、および関節運動学を学ぶ（6）
7	機器を用いた各種測定の説明
8	トルク測定装置を用いた等速性筋力の測定（1）
9	トルク測定装置を用いた等速性筋力の測定（2）
10	三次元動作解析装置を用いた運動解析（1）
11	三次元動作解析装置を用いた運動解析（2）
12	歩行の定量的測定（速度、歩幅、ケイデンスなど）（1）
13	歩行の定量的測定（速度、歩幅、ケイデンスなど）（2）
14	種々のパフォーマンス測定の実際（1）
15	種々のパフォーマンス測定の実際（2）

評価方法	出席、実習参加状況、課題等を加味し総合的に評価する。
教科書	基礎運動学 第6版補訂、プロメテウス解剖学コアアトラス 第2版、系統看護学講座「人体の構造と機能① 解剖生理学」
参考書	プロメテウス解剖学コアアトラス 第2版 運動療法のための機能解剖学的触診 上肢 改訂第2版
備考	

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	理学療法研究法Ⅰ			担当講師	佐用 寛文		
分 野	専門	授業方法	講義	実務経験	理学療法士として実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	前期
概 要	理学療法学での身体の計測、機器の操作を学ぶ。また、テーマを絞り込み、文献検索や論文作成等、理学療法研究を総合的に学ぶ。						
到達目標	1. 理学療法計測機器の操作を理解する。 2. 計測データをまとめ報告書を作成できるようになる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	オリエンテーション
2	学会への参加方法
3	学会参加①
4	学会参加②
5	学会参加③
6	研究について①
7	研究について②
8	研究について③
9	文献検索①
10	文献検索②
11	英語論文の読み方①
12	英語論文の読み方②
13	研究計画作成について①
14	研究計画作成について②
15	研究計画作成について③

評価方法	レポート、発表等を加味し総合的に評価する。
教科書	PT・OTのための臨床研究はじめての一步 羊土社
参考書	なし
備 考	

2021年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	理学療法研究法Ⅱ			担当講師	佐用 寛文		
分 野	専門	授業方法	講義	実務経験	理学療法士として実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	後期
概 要	理学療法学での身体の計測、機器の操作を学ぶ。また、テーマを絞り込み、文献検索や論文作成等、理学療法研究を総合的に学ぶ。						
到達目標	1. 理学療法計測機器の操作を理解する。 2. 計測データをまとめ報告書を作成できるようになる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	研究計画発表①
2	研究計画発表②
3	研究計画発表③
4	研究計画発表④
5	研究について①
6	研究について②
7	研究について③
8	研究について④
9	研究について⑤
10	研究について⑥
11	論文作成①
12	論文作成②
13	論文作成③
14	発表①
15	発表②

評価方法	レポート、発表等を加味し総合的に評価する。
教科書	PT・OTのための臨床研究はじめの一步 羊土社
参考書	なし
備 考	

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	総合理学療法Ⅰ			担当講師	武藤 久司ほか・理学療法学科教員		
分 野	専門	授業方法	講義・演習	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	理学療法の見学・模倣を中心に実施する見学実習Ⅰ・Ⅱにて経験したことを基に、解剖学的・生理学的・運動学的視点と関連付けて、理学療法の知識・技術を整理・統合する。						
到達目標	1. 解剖学的視点と関連付けて、理学療法を考えられる。 2. 生理学的視点と関連付けて、理学療法を考えられる。 3. 運動学的視点と関連付けて、理学療法を考えられる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	オリエンテーション
2	解剖学的視点と考える理学療法①（講義）
3	解剖学的視点から考える理学療法②（講義）
4	解剖学的視点から考える理学療法③（演習）
5	解剖学的視点から考える理学療法④（演習）
6	生理学的視点から考える理学療法①（講義）
7	生理学的視点から考える理学療法②（講義）
8	生理学的視点から考える理学療法③（演習）
9	生理学的視点から考える理学療法④（演習）
10	運動学的視点から考える理学療法①（講義）
11	運動学的視点から考える理学療法②（講義）
12	運動学的視点から考える理学療法③（演習）
13	運動学的視点から考える理学療法④（演習）
14	期末試験
15	期末試験

評価方法	筆記試験にて評価をする。
教科書	配付資料
参考書	なし
備考	

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	理学療法評価学基礎Ⅰ			担当講師	鈴木 康平		
分野	専門	授業方法	講義・演習	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	46 時間	学 年	1 年次	学 期	前期
概 要	評価は理学療法を実施する上で治療目標、プログラム立案等を行う過程の中で基本である。 ここでは理学療法の基礎となる評価について一連の流れを学習し、基本的な検査・測定を学ぶ。						
到達目標	1. 理学療法評価の目的と評価方法について説明できる 2. バイタルサイン（血圧、脈拍、呼吸数など）が確認できる 3. 機能形態計測（四肢長、周径など）が実施できる 4. 関節可動域制限の程度と関連要因を把握する評価が実施できる						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	オリエンテーションおよび評価総論（評価の意義・目的・過程）
2	評価総論（評価の意義・目的・過程）
3	バイタルサインの意義・目的と実際
4	バイタルサイン測定
5	形態測定の意義・目的と実際（上肢）
6	形態測定（下肢）
7	ROM測定意義・目的と実際（肩関節）
8	ROM測定（肩関節）
9	ROM測定（肩関節、肩甲帯）
10	ROM測定（肩甲帯）
11	ROM測定（肘関節、前腕）
12	ROM測定（手関節）
13	ROM測定（手関節）
14	ROM測定（股関節）
15	ROM測定（股関節）
16	ROM測定（股関節）
17	ROM測定（膝関節）
18	ROM測定（足関節）
19	ROM測定（足関節）
20	総合演習
21	実技試験
22	実技試験
23	筆記試験

評価方法	出席、筆記試験・実技試験、身だしなみ、授業態度等を加味し総合的に評価する
教科書	理学療法評価学 第6版 金原出版 PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂 金原出版
参考書	図解理学療法検査・測定ガイド 第2版 文光堂

備 考	
-----	--

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	理学療法評価学基礎Ⅱ			担当講師	米田 彰		
分 野	専門	授業方法	講義・演習	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	36 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	評価は理学療法を実施する上で治療目標、プログラム立案等を行う過程の中で基本である。ここでは理学療法の基礎となる徒手筋力検査（MMT）について一連の流れを学習し、基本的な検査・測定を学ぶ。						
到達目標	1. 徒手筋力検査の目的について説明できる。 2. 徒手筋力検査の一連の流れ・方法について説明できる。 3. 筋力低下の程度と関連要因を把握する評価が実施できる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	MMT総論①
2	MMT総論②
3	MMT実技①：肩関節の屈曲、伸展、外転、外旋、内旋
4	MMT実技②：肩関節の水平外転、水平内転、肘関節の屈曲、伸展
5	MMT実技③：前腕の回外、回内、股関節の屈曲、縫工筋
6	MMT実技④：股関節の伸展、外転、大腿筋膜張筋、内転
7	MMT実技⑤：股関節の外旋、内旋、膝屈曲、伸展、足底屈、背屈
8	MMT実技⑥：上下肢MMTまとめ
9	MMT実技⑦：肩甲骨の外転+上方回旋、挙上、下制
10	MMT実技⑧：肩甲骨の下制+内転、内転+下方回旋、内転
11	MMT実技⑨：頭頸部の屈曲、伸展、回旋
12	MMT実技⑩：体幹の屈曲、伸展、回旋、骨盤挙上
13	MMT実技⑪：頭頸部・体幹MMTまとめ
14	MMT総まとめ①
15	MMT総まとめ②
16	筆記試験
17	実技試験
18	実技試験

評価方法	出席、筆記試験・実技試験、身だしなみ、授業態度等を加味し総合的に評価する
教科書	新・徒手筋力検査法 原著第10版 協同医書出版社 PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂 金原出版
参考書	なし
備 考	

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	理学療法評価技術論Ⅰ			担当講師	長谷川 聡		
分 野	専門	授業方法	講義・演習	実務経験	理学療法士として実務経験		
単位数	1 単位	時 間	45 時間	学 年	2年次	学 期	前期
概 要	理学療法評価総論を基に実技を加え、実際の評価方法を学習する。また、学習した内容を基に臨床実習だけではなく理学療法士として業務を円滑に進められることを目的とする。						
到達目標	1. 個々の検査・測定について説明ができる 2. 個々の評価から患者の障害像が想起できる 3. 個々の検査・測定について実施できる						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	オリエンテーション
2	循環器の機能解剖
3	正常心電図
4	異常心電図
5	循環器のリハビリテーション
6	循環器のリハビリテーション
7	痛みの評価・問診
8	痛みの評価・問診
9	整形テスト（意義）
10	整形テスト（上肢）
11	整形テスト（上肢）
12	整形テスト（下肢）
13	整形テスト（下肢）
14	整形テスト（体幹）
15	整形テスト（体幹）
16	画像評価（xp/CT/MRIの基礎）
17	画像評価（xp/CT/MRIの基礎）
18	画像評価（神経系）
19	画像評価（運動器）
20	超音波
21	超音波
22	まとめ
23	まとめ

評価方法	出席、筆記・実技試験等を加味し総合的に評価をする
教科書	理学療法評価学 第2版 金原出版
参考書	早わかり心電図 整形外科ポケットマニュアル PTOTのための画像のみかた

備 考	担当教員から指示がない限り、原則として実習に準ずる身だしなみ・服装で授業に臨むこと。
-----	--

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	理学療法評価技術論Ⅱ			担当講師	鈴木 康平		
分野	専門	授業方法	講義・演習	実務経験	理学療法士として実務経験		
単位数	1 単位	時 間	45 時間	学 年	2年次	学 期	後期
概 要	理学療法評価総論を基に実技を加え、実際の評価方法を学習する。また、学習した内容を基に臨床実習だけではなく理学療法士として業務を円滑に進められることを目的とする。						
到達目標	1. 個々の検査・測定について説明ができる 2. 個々の評価から患者の障害像が想起できる 3. 個々の検査・測定について実施できる						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	オリエンテーション、知覚検査①
2	知覚検査②
3	知覚検査③
4	反射検査①
5	反射検査②
6	反射検査③
7	脳神経検査①
8	脳神経検査②
9	脳神経検査③
10	協調性検査①
11	協調性検査②
12	協調性検査③
13	運動麻痺の検査①
14	運動麻痺の検査②
15	バランス検査①
16	バランス検査②
17	高次脳機能検査①
18	高次脳機能検査②
19	高次脳機能検査③
20	不随意運動検査①
21	不随意運動検査②
22	総合練習①
23	総合練習②

評価方法	出席、筆記・実技試験等を加味し総合的に評価をする
教科書	ベットサイドの神経の診かた 南山堂
参考書	理学療法評価学 第6版 金原出版

備 考	
-----	--

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	理学療法臨床推論Ⅰ			担当講師	加藤 仁志・他理学療法学科全教員		
分 野	専門	授業方法	講義・実技	実務経験	理学療法士として実務経験		
単位数	2 単位	時 間	90 時間	学 年	2年次	学 期	通年
概 要	理学療法士における養成教育では知識・技能・態度の習得が目標とされる。この内、技能・態度の教育は臨床実習を通して行うことが多い。学生の臨床能力を学内で客観的に捉えるために理学療法士用のOSCEの内容を用いて、臨床技能の向上を目指した授業を行う。						
15	1. 理学療法士の心得を理解し、チームの一員として行動することができる。 2. 臨床上必要な最低限の知識・技術・態度について説明できる。 3. 特に態度について理学療法場面で活用することができる。 4. 理学療法士に必要な機能障害・能力低下に対する誘導・補助方法を実施することができる。 5. 対象者の自己決定権の意義を踏まえながら対応できる。 6. インフォームド・コンセントの意義と必要性を理解できる。 7. 人々の相互関係を成立させるコミュニケーション能力について説明できる。 8. 良好な人間関係を作る条件や要因を考察できる。 9. 他者の意見を傾聴できる。 10. 理解した結論に基づいた行動ができる。 11. 医療の安全性を確保するための対応策について説明できる。 12. 感染対策について説明できる。 13. 医療現場における清潔・不潔の概念について説明できる。 14. 情報管理の必要性について説明できる。 15. 知り得た情報の発信、記録、保存に関して、情報漏洩などのリスク管理ができる。 16. 理学療法評価の目的、評価方法、評価実施前のスクリーニング検査について説明できる。 17. 理学療法の基本的評価技術（バイタルサイン、医療面接、機能形態計測、関節可動域測定、筋力測定、感覚検査）が実施できる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容		
1	オリエンテーション、模擬患者練習（1）	24	オリエンテーション
2	模擬患者練習（2）	25	整形外科疾患別検査（1）
3	模擬患者練習（3）	26	整形外科疾患別検査（2）
4	模擬患者練習（4）	27	関節可動域運動、筋力増強運動、振り子運動（1）
5	ROM-t（1）	28	関節可動域運動、筋力増強運動、振り子運動（2）
6	ROM-t（2）	29	関節可動域運動、筋力増強運動、振り子運動（3）
7	MMT（1）	30	関節可動域運動、筋力増強運動、振り子運動（4）
8	MMT（2）	31	起き上がり、起立・着座（1）
9	形態測定（1）	32	起き上がり、起立・着座（2）
10	形態測定（2）	33	更衣（上衣、下衣）、食事（1）
11	コミュニケーション技術、医療面接（1）	34	更衣（上衣、下衣）、食事（2）
12	コミュニケーション技術、医療面接（2）	35	感覚検査、反射検査（1）
13	小テスト（1）	36	感覚検査、反射検査（2）
14	小テスト（2）	37	脳卒中の麻痺側運動機能評価（1）
15	標準感染対策、リスク管理、脈拍・血圧（1）	38	脳卒中の麻痺側運動機能評価（2）
16	標準感染対策、リスク管理、脈拍・血圧（2）	39	脳神経検査（1）
17	車椅子介助、移乗（1）	40	脳神経検査（2）
18	車椅子介助、移乗（2）	41	運動失調検査（1）
19	まとめ（1）	42	運動失調検査（2）
20	まとめ（2）	43	摂食嚥下障害のスクリーニング

21	検査測定実習（1）	44	摂食嚥下練習
22	検査測定実習（2）	45	まとめ（1）
23	検査測定実習（3）	46	まとめ（2）
評価方法	出席、実技試験（OSCE）等を加味し総合的に評価をする。		
教科書	PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版 金原出版 PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編 金原出版 適宜、配付資料あり。		
参考書			
備 考			

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	理学療法臨床推論Ⅱ			担当講師	加藤 仁志		
分野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験	理学療法士として実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	近年、理学療法士教育において問題解決能力の育成に主眼が置かれ、問題基盤型学習（PBL）の導入が行われている。また、臨床推論能力の開発が重要な教育目標となっている。この科目ではグループワークを中心に進め、理学療法士に必要な臨床推論能力の開発・向上を図る。						
到達目標	1. 得られた情報を統合し、客観的・批判的に整理して自身の考えを表現できる。 2. 理学療法評価の目的と評価方法について説明できる。 3. 理学療法評価実施前のスクリーニング検査について説明できる。 4. 理学療法評価を実施する時期について説明できる。 5. 理学療法評価に基づく治療計画立案までのプロセスが説明できる。 6. 理学療法実施に関わる情報の整理の仕方が説明でき、整理できる。 7. 理学療法の目標設定の仕方が説明できる。 8. 理学療法プログラムの立案の仕方が説明できる。 9. 診療ガイドラインについて説明できる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	オリエンテーション、情報収集項目と収集方法の決定（グループ学習）（1）						
2	情報収集項目と収集方法の決定（グループ学習）（2）						
3	情報収集項目と収集方法の決定（グループ学習）（3）						
4	統合と解釈について（講義）						
5	統合と解釈（グループ学習）（1）						
6	統合と解釈（グループ学習）（2）						
7	統合と解釈（グループ学習）（3）						
8	統合と解釈（グループ学習）（4）						
9	統合と解釈（グループ学習）（5）						
10	発表準備（グループ学習）（1）						
11	発表準備（グループ学習）（1）						
12	発表準備（グループ学習）（1）						
13	発表（1）						
14	発表（2）						
15	発表（3）						
評価方法	出席・授業態度・発表等を加味し総合的に評価する。						
教科書							
参考書	理学療法臨床診断学への志向 文光堂 その他・理学療法評価学・治療学に関する書籍全般						
備 考							

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	日常生活活動論			担当講師	山神 翔太		
分 野	専門	授業方法	講義・演習	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	46 時間	学 年	1年次	学 期	前期
概 要	日常生活活動（ADL）は人間が生活するために基礎的な一連の身体動作群をいう。この科目では生活行為・基本動作を学習し、理学療法士としての評価法・指導法等基礎的な技術を獲得することを目的とする。						
到達目標	1. ICFとその各項目について説明することができる。 2. 福祉用具の種類、適用について説明できる。 3. 車いすの種類、適用について説明でき、調整できる。 4. セルフケアについて説明できる。 5. 基本動作の種類（寝返り、起き上がり、立ち上がり、歩行）について説明できる。 6. セルフケア・起居移動動作能力の程度と関連要因を把握する評価ができる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	オリエンテーション、ADLの概念
2	ICFについて
3	ADLの評価
4	福祉用具について
5	福祉用具使用の実際
6	車いすについて
7	車いす使用の実際①
8	車いす使用の実際②
9	セルフケアと福祉用具①
10	セルフケアと福祉用具②
11	セルフケアと福祉用具③
12	基本動作演習（基本動作の基礎）
13	基本動作演習（立ち上がり）①
14	基本動作演習（立ち上がり）②
15	基本動作演習（寝返り）①
16	基本動作演習（寝返り）②
17	基本動作演習（起き上がり）①
18	基本動作演習（起き上がり）②
19	基本動作演習（移乗・歩行）①
20	基本動作演習（移乗・歩行）②
21	実技試験
22	実技試験
23	実技試験

評価方法	レポート課題、実技試験等を加味し総合的に評価する
教科書	日常生活活動学・生活環境学 第5版 医学書院

参考書	
備 考	※臨床運動学と関連する部分があります. ※課題を通してさらに学習を深めてください. くれぐれも提出期限・体裁などには注意すること.

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	ADL技術論Ⅱ			担当講師	長谷川 聡, 米田 彰		
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	60 時間	学 年	2年次	学 期	前期・後期
概 要	歩行の生理学的な理解と分析を行う事で病的歩行の理解を深めていく。 基本動作（立ち上がり、寝返り、起き上がり）の動作分析を行い、臨床思考を学ぶ。 学習した内容を基礎に臨床実習、理学療法士として円滑に進められることを目的とする。						
到達目標	1. 歩行の生理学が理解できる 2. 正常歩行が理解できる 3. 病的歩行ができる 4. 歩行分析ができる 5. 基本動作が理解できる 6. 基本動作分析ができる						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	歩行とは
2	ランチョ・ロス・アミーゴ式分析、ロコモーター・パッセンジャー
3	ステップ・ストライド・歩隔・歩行速度・歩行率・モーメント
4	歩行周期・倒立振り理論
5	ロッカーファンクション・COM・BOS・COP・CPG
6	歩行に必要な筋力と関節可動域
7	歩行の6因子決定論
8	小児の歩行・高齢者の歩行・動歩行原理
9	異常歩行
10	歩行の評価バッテリー（10m歩行・TUG・Stop Walking While Talking Test）
11	動作水準の階層化
12	歩行観察
13	症例歩行分析
14	歩行動作分析まとめ
15	歩行動作分析まとめ
16	立ち上がりの動作分析
17	立ち上がりの動作分析
18	立ち上がりの動作分析
19	立ち上がりの動作分析
20	立ち上がりの動作分析
21	立ち上がりの動作分析
22	寝返りの動作分析
23	寝返りの動作分析
24	寝返りの動作分析
25	寝返りの動作分析
26	起き上がりの動作分析
27	起き上がりの動作分析
28	起き上がりの動作分析
29	起き上がりの動作分析

30	立ち上がり，寝返り，起き上がり動作分析まとめ
評価方法	レポート課題，筆記試験に基づいて学修成果を判定する。
教科書	観察による歩行分析 （医学書院）・基礎運動学 第6版 動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践 （メジカルビュー）
参考書	姿勢・動作・歩行分析 （羊土社）
備 考	※担当教員から指示がない限り、原則として実習に準ずる身だしなみ・服装で授業に臨むこと。 ※運動学からつながる授業となります。事前に運動学の復習をして理解を深めておいて下さい。

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	運動療法技術論			担当講師	長谷川 聡, 高倉 秀暢		
分 野	専門	授業方法	講義・演習	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	60 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	理学療法の分野では、様々な疾患に対して運動療法を施行する。この科目では、運動療法の基礎、運動療法技術を学習し疾患別に対する運動療法が行えることを目的とする。						
到達目標	1. 活動（運動）を実行する上で必要となる姿勢制御・運動制御の理論的背景について説明できる。 2. 随意運動の制御システムについて説明できる。 3. 運動学習理論について説明できる。 4. 運動学種の過程とそのモデルについて説明できる。 5. 活動（運動）を継続する上で必要となる運動耐用能について説明できる。 6. 運動による呼吸の変化について説明できる。 7. 運動による循環の変化について説明できる。 8. 運動による代謝の変化について説明できる。 9. 廃用症候群の病因について説明できる。 10. 廃用症候群の分類について説明できる。 11. 代表的な廃用症候群（褥瘡、関節拘縮、筋萎縮など）の病態について説明できる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	運動とは？ 運動の仕組み
2	筋収縮様式による分類
3	関節の構造と機能
4	運動様式と包内運動
5	関節と筋収縮
6	伸張反射とは
7	その他の反射
8	筋収縮と滑走説
9	興奮収縮連関
10	張力からみた筋収縮特性
11	運動と呼吸
12	呼吸器疾患の運動療法の実際
13	運動と循環
14	循環器疾患について
15	エネルギー代謝
16	筋力発生・筋力低下、てこ、長さと張力
17	筋力増強運動の原理と原則
18	1RM、漸増抵抗運動、収縮様式別筋力増強
19	筋持久力を規定する要因、OCKとCKC
20	OCKとOKCの運動の実際
21	持久力とは、エネルギー供給系
22	フィックの原理、スターリングの法則、カルボーネンの式、最大酸素摂取量
23	LT, VT, AT、ボルグスケール
24	6分間歩行テスト
25	協調性運動、失調の運動療法
26	痛みに対する運動療法、急性痛と慢性痛

27	筋肉痛と関節痛、痛みに対する運動療法
28	まとめ
29	終講試験（実技）
30	終講試験（筆記）
評価方法	筆記・実技試験に基づいて学修成果を判定する。
教科書	「標準理学療法学 運動療法学 総論」 第4版 医学書院
参考書	なし
備 考	※担当教員から指示がない限り、原則として実習に準ずる身だしなみ・服装で授業に臨むこと。 ※運動学からつながる授業となります。事前に運動学の復習をして理解を深めておいて下さい。

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	物理療法学			担当講師	山神 翔太		
分野	専門	授業方法	講義・演習	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	46 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	理学療法臨床現場において現在多くの治療場面で用いられている物理療法の有用性を理解し、いつどのようによいと最も効果的で安全に適用できるかについて学ぶ。また、リハビリテーション治療計画に適切な物理療法と種々の治療的要素を統合し、信頼性の高い根拠に基づいた物理療法を対象者へ適用することを学ぶ。						
到達目標	1. 物理療法の種類を説明できる。 2. 物理療法の適応・禁忌について説明できる。 3. 物理療法の実施方法・保守点検・安全管理について説明できる。 4. 物理療法の実際に使用する。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	オリエンテーション、物理療法総論
2	温熱療法
3	寒冷療法
4	電磁波
5	光線療法
6	電気刺激療法①
7	電気刺激療法②
8	超音波療法
9	水治療法
10	牽引療法、筋電図バイオフィードバック療法
11	振動刺激療法、衝撃波療法、ロボットリハビリテーション
12	物理療法機器の操作・管理・実施方法①（温熱療法、寒冷療法）
13	物理療法機器の操作・管理・実施方法②（温熱療法、寒冷療法）
14	物理療法機器の操作・管理・実施方法③（電磁波・光線療法、電気療法）
15	物理療法機器の操作・管理・実施方法④（電磁波・光線療法、電気療法）
16	物理療法機器の操作・管理・実施方法⑤（超音波療法、水治療法）
17	物理療法機器の操作・管理・実施方法⑥（超音波療法、水治療法）
18	物理療法機器の操作・管理・実施方法⑦（牽引療法、衝撃波療法）
19	物理療法機器の操作・管理・実施方法⑧（牽引療法、衝撃波療法）
20	筆記試験
21	実技試験
22	実技試験
23	実技試験

評価方法	授業参加度、筆記試験・実技試験を加味し総合的に評価する
教科書	Cross link 理学療法学テキスト 物理療法学 メジカルビュー社
参考書	

備 考	※グループ学習を通じて演習を行います. ※しっかりと自己学習（予習・復習）してきて下さい.
-----	--

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	義肢学			担当講師	井上 和久		
分 野	専門	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	後期
概 要	本講義では、切断者の身体状況に適した義肢のあり方を学ぶとともに、切断者がその義肢を有効に操作できるよう、筋力トレーニング、断端管理などを学習する。						
到達目標	1. 切断、義肢の概念について概説できる。 2. 各種義肢の基本的構造と概念について説明できる。 3. 義足歩行の特徴を理解し、異常現象を把握することができる。 4. 上記に対して義肢の適切な補正を図り、治療計画に結ぶつけることができる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	義肢学総論（1）						
2	義肢学総論（2）						
3	義肢学総論と実際（1）						
4	義肢学総論と実際（2）						
5	義肢学各論（1）						
6	義肢学各論（2）：評価						
7	義肢学各論（3）：分類、装着法、ソケット、継手						
8	義肢学各論（4）：分類、装着法、ソケット、継手						
9	義肢学各論（5）：股・膝・足別義足						
10	小テスト						
11	義肢学各論（6）：ベンチ、スタティック、ダイナミックアライメント						
12	義肢学各論（7）：ベンチ、スタティック、ダイナミックアライメント						
13	義肢学各論（8）：義足歩行、義手						
14	義肢学各論（9）：義足歩行、義手						
15	義肢学各論（10）：ベンチアライメント、AK等）						
評価方法	受講態度、遅刻・欠席、定期試験等を加味した上、総合的に評価をする。						
教科書	義肢・装具学 羊土社						
参考書	なし						
備 考							

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☐	
科目名	装具学			担当講師	井上 和久			
分 野	専門	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験			
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	前期	
概 要	本科目では、四肢・体幹の機能障害の軽減を目的に使用される装具の基本的知識、適応と理論および適合判定などについて学習することを目的とする。							
到達目標	1. 装具の概念について概説できる。 2. 切断、義肢の概念について概説できる。 3. 各種装具の基本的構造と概念について説明できる。 4. 装具歩行の特徴を理解し、異常現象を把握することができる。 5. 上記に対して装具の適切な補正を図り、治療計画に結ぶつけることができる。							

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	装具学総論（1）
2	装具学総論（2）
3	股・膝・免荷装具
4	足装具
5	脳卒中片麻痺の装具（1）
6	脳卒中片麻痺の装具（2）
7	対麻痺の下肢装具
8	下肢装具の適合評価
9	小テスト
10	体幹装具
11	疾患別装具（側彎，先股脱，ペルテス等）
12	上肢装具（1）
13	上肢装具（2）
14	装具採型～陰性・陽性モデル～（1）
15	装具採型～陰性・陽性モデル～（2）

評価方法	受講態度、遅刻・欠席、定期試験等を加味した上、総合的に評価をする。
教科書	義肢装具学 羊土社
参考書	なし
備 考	

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	循環器・呼吸器疾患理学療法			担当講師	豊田 和典		
分野	専門	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	1 単位	時間	30 時間	学年	2年次	学期	後期
概要	循環器・呼吸器疾患の基礎知識・評価を学習し、循環器・呼吸器疾患の理学療法を習得する。						
到達目標	1. 循環器・呼吸器疾患の病態を理解し、リスク管理ができる。 2. 循環器・呼吸器疾患理学療法の評価が列挙でき、評価することができる。 3. 循環器・呼吸器疾患理学療法の治療プログラムが列挙でき、実施することができる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	呼吸器・循環器の解剖						
2	血ガス分析（1）						
3	血ガス分析（2）						
4	心臓リハ概論						
5	X-Pのみかた						
6	急性期心リハ						
7	慢性期心リハ						
8	アセスメント（1）						
9	アセスメント（2）						
10	人工呼吸器の理学療法（1）						
11	人工呼吸器の理学療法（2）						
12	人工呼吸器の理学療法（3）						
13	呼吸理学療法（1）						
14	呼吸理学療法（2）						
15	呼吸理学療法（3）						
評価方法	出席、筆記試験等を加味し総合的に評価をする。						
教科書	配付資料						
参考書	なし						
備考							

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	内部障害理学療法			担当講師	鈴木 康平		
分野	専門	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	前期
概 要	糖尿病、腎疾患、腫瘍の基礎知識・評価を学習し、疾患別の理学療法を学修する。						
到達目標	1. 糖尿病の疫学、予後、病因、病態、症候、検査（画像・生理検査を含む）、診断、治療、リハビリテーション医療について説明できる。 2. 糖尿病にかかる理学療法について説明でき、実施できる。 3. 腫瘍の病因、分類、グレード、ステージ、浸潤、転移、自立性増殖について説明できる。 4. 悪液質について説明できる。 5. がん関連障害の疫学、病因、病態、症候、検査（画像・生理検査を含む）、診断、治療、リハビリテーション医療について説明できる。 6. がん関連障害の一般的疾患（肺がん、消化器がん、乳がん、血液がん、骨軟部腫瘍、脳腫瘍、頭頸部がん、その他腫瘍）について説明できる。 7. がんのリハビリテーションにおける理学療法士の役割および、理学療法について説明できる。 8. 腎疾患の疫学、病因、病態、症候、検査（画像・生理検査を含む）、診断、治療、リハビリテーション医療について説明できる。 9. 一般的な腎疾患（腎不全）について説明できる。 10. 腎疾患にかかる理学療法について説明できる。 11. 行動変容の段階について説明できる。 12. 個別指導、集団指導のポイントについて説明できる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	ガイダンス、内部障害概論（1）						
2	内部障害概論（2）						
3	内部障害概論（3）						
4	内部障害概論（4）						
5	内部障害概論（5）						
6	内部障害概論（6）						
7	内部障害概論（7）						
8	評価総論（1）						
9	評価総論（2）						
10	糖尿病（1）						
11	糖尿病（2）						
12	腎疾患（1）						
13	腎疾患（2）						
14	がん（1）						
15	がん（2）						
評価方法	筆記試験に基づいて学修成果を判定する。						
教科書	内部障害理学療法学 羊土社						
参考書							

備 考	
-----	--

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	脊髄損傷理学療法			担当講師	水上 昌文		
分野	専門	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	前期
概 要	脊髄損傷理学療法の基礎知識・評価を学習し、脊髄損傷理学療法を習得する。						
到達目標	1. 各疾患の病態を理解し、リスク管理ができる。 2. 疾患別理学療法の評価が列举でき、評価することができる。 3. 疾患別理学療法の治療プログラムが列举でき、実施することができる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	評価（ASIA、Zancolli、他）
2	疫学
3	神経学的回復
4	急性期の理学療法（呼吸，排痰，ポジショニング）
5	完全麻痺に対する回復期の理学療法、ADL（1）
6	完全麻痺に対する回復期の理学療法、ADL（2）
7	完全麻痺に対する回復期のPT・ADL（座位獲得、プッシュアップ、起居移動移乗動作獲得）（1）
8	完全麻痺に対する回復期のPT・ADL（座位獲得、プッシュアップ、起居移動移乗動作獲得）（2）
9	不全麻痺のPT（可動性，痙性，筋力強化）、歩行（1）
10	不全麻痺のPT（可動性，痙性，筋力強化）、歩行（2）
11	新たな歩行トレーニング（BWSTT、ロボティクス）（1）
12	新たな歩行トレーニング（BWSTT、ロボティクス）（2）
13	完全麻痺の歩行再建、合併症、心理（1）
14	完全麻痺の歩行再建、合併症、心理（2）
15	排泄、性機能障害、自律神経障害と理学療法

評価方法	出席、筆記試験等を加味し総合的に評価をする。
教科書	配付資料
参考書	なし
備 考	

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	小児理学療法			担当講師	山神 翔太		
分 野	専門	授業方法	講義・実技	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	45 時間	学 年	2年次	学 期	前期
概 要	専門分野の基礎知識・評価を学習し、疾患別の理学療法を習得する。						
到達目標	1. 小児の障害を引き起こす一般的な疾患の疫学、病因、症候、予後について説明できる。 2. 発達にかかる検査・評価について説明できる。 3. 発達にかかる理学療法が説明・実施できる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	オリエンテーション
2	正常発達
3	正常発達
4	発達検査・評価
5	脳性麻痺総論
6	脳性麻痺各論
7	脳性麻痺（痙直型四肢麻痺）
8	脳性麻痺（痙直型両麻痺）
9	脳性麻痺（痙直型片麻痺）
10	脳性麻痺（アテトーゼ型）
11	重症心身障害児・者
12	早産児
13	先天性神経筋疾患①
14	先天性神経筋疾患②
15	染色体異常①
16	染色体異常②
17	二分脊椎
18	骨系統疾患
19	運動発達遅滞
20	発達性協調運動障害
21	中途障害児
22	療育
23	筆記試験

評価方法	課題、筆記試験に基づいて学修成果を判定する。
教科書	小児理学療法学テキスト 改訂第3版 南江堂
参考書	イラストでわかる小児理学療法 医歯薬出版株式会社

備 考	※人間発達学、小児科学と関わります. ※しっかりと自己学習（予習・復習）してきて下さい.
-----	---

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☐
科目名	整形外科学・スポーツ理学療法			担当講師	芋生祥之、小野瀬、飛田・他		
分 野	専門	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	後期
概 要	整形外科学・スポーツ理学療法の基礎知識・評価を学習し、整形外科学・スポーツ理学療法を習得する。						
到達目標	1. 整形外科学・スポーツ疾患の病態を理解し、リスク管理ができる。 2. 整形外科学・スポーツ理学療法の評価が列挙でき、評価することができる。 3. 整形外科学・スポーツ理学療法の治療プログラムが列挙でき、実施することができる。 4. スポーツに介入するPT業務について概説できる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	病態生理学
2	薬物療法
3	臨床運動学
4	臨床解剖学
5	評価学（上肢）
6	評価学（下肢）
7	臨床推論
8	心理療法
9	スポーツパフォーマンス
10	体力トレーニング
11	コンディショニング
12	物理療法学
13	運動療法学
14	ACL患者の術後理学療法（1）
15	ACL患者の術後理学療法（2）

評価方法	出席、筆記試験等を加味し総合的に評価をする。
教科書	配付資料
参考書	「理学療法ハンドブック」 改訂第4版 協同医書出版社
備 考	

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	脳卒中理学療法			担当講師	武藤久司，稲川良		
分野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験	理学療法士，言語聴覚士としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	2 年次	学 期	後期
概 要	脳卒中患者について、理学療法に必要な基礎的な知識と一般的な運動療法の概念およびADLについて学ぶ。また、グループワークを通して脳卒中理学療法に必要な基礎知識を学ぶ						
到達目標	①脳血管障害急性期・回復期のリスク管理（訓練可否基準）が理解できる。②合併症嚥下障害と誤嚥対策、高次脳機能障害が理解できる。③脳卒中片麻痺の評価が実施できる。④対象疾患の運動療法が実施できる。⑤対象疾患のADLを理解できる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	オリエンテーション
2	脳卒中の分類
3	実技①プレーシング
4	急性期・回復期のリスク管理
5	実技②頭部コントロール実技③key point of control
6	早期理学療法・歩行分析・グループワーク
7	実技④ポジショニング⑤起き上がり
8	脳卒中片麻痺の評価
9	実技⑥座位から立位・⑦座位バランス
10	実技⑧肩・上肢のコントロール⑨足部の治療
11	実技⑩歩行
12	高次脳機能障害
13	脳画像のみかた
14	認知運動療法
15	認知運動療法

評価方法	発表・実技試験にて学修成果を判定する。
教科書	理学療法ハンドブック 改訂第4版 協同医書出版
参考書	病気が見える（脳・神経）
備 考	

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	神経疾患理学療法			担当講師	藤田 義隆		
分野	専門	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	後期
概 要	神経疾患の基礎知識・評価を学習し、神経疾患理学療法を習得する。						
到達目標	1. 神経疾患の病態を理解し、リスク管理ができる。 2. 神経疾患理学療法の評価が列挙でき、評価することができる。 3. 神経疾患理学療法の治療プログラムが列挙でき、実施することができる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	パーキンソン病の理学療法（1）						
2	パーキンソン病の理学療法（2）						
3	パーキンソン病の理学療法（実技）（1）						
4	パーキンソン病の理学療法（実技）（2）						
5	多発性硬化症の理学療法（1）						
6	多発性硬化症の理学療法（2）						
7	ギラン・バレー症候群の理学療法						
8	脊髄小脳変性症の理学療法（1）						
9	脊髄小脳変性症の理学療法（2）						
10	筋萎縮性側索硬化症の理学療法（1）						
11	筋萎縮性側索硬化症の理学療法（2）						
12	ミオパチーの理学療法（1）						
13	ミオパチーの理学療法（2）						
14	難病の制度、認知症について（1）						
15	難病の制度、認知症について（2）						
評価方法	出席、筆記試験等を加味し総合的に評価をする。						
教科書	配付資料						
参考書	「理学療法ハンドブック」 改訂第4版 協同医書出版社						
備 考	動きやすい服装で実技に臨むこと。（ジャージが望ましい。）						

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	総合理学療法学Ⅰ			担当講師	武藤久司ほか・理学療法学科教員		
分野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	2単位	時間	60時間	学年	3年次	学期	前期
概要	基礎的な学問についての再学習をすることにより，臨床実習にて学んだ知識を総合的に理解する．						
到達目標	1. 脳血管障害・神経筋疾患・脊髄損傷が理解できる。 2. 呼吸機能・心電図が理解できる。 3. 人間発達・小児疾患が理解できる。 4. 運動学・内科学が理解できる。 5. ADLが理解できる。 6. 物理療法・義肢装具学が理解できる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	脳血管疾患・変性疾患						
2	脳血管疾患・変性疾患						
3	脳血管疾患・変性疾患						
4	脳血管疾患・変性疾患						
5	神経筋疾患						
6	神経筋疾患						
7	内科疾患						
8	内科疾患						
9	がん・病理						
10	がん・病理						
11	内科疾患						
12	内科疾患						
13	呼吸器・循環器疾患						
14	呼吸器・循環器疾患						
15	呼吸器・循環器疾患						
16	呼吸器・循環器疾患						
17	発達障害・人間発達・小児疾患						
18	発達障害・人間発達・小児疾患						
19	脊髄損傷						
20	脊髄損傷						
21	脊髄損傷						
22	脊髄損傷						
23	精神医学						
24	精神医学						
25	心理学・臨床心理学						
26	心理学・臨床心理学						
27	脳画像						
28	脳画像						
29	摂食・嚥下						

30	摂食・嚥下
評価方法	筆記試験を行い判断する.
教科書	なし
参考書	なし
備 考	

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒
科目名	総合理学療法学Ⅱ（後期）			担当講師	加藤 仁志，他	
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験	理学療法士として 年の実務経験	
単位数	2 単位	時 間	60 時間	学 年	3年次	学 期 後期
概 要	各領域の保健福祉について理解する。 理学療法士の役割を学ぶ。					
到達目標	1. 各領域の対象疾患を理解できる。 2. 理学療法士の役割を説明できる。					

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	計算
2	計算
3	義肢学・装具学
4	義肢学・装具学
5	物理療法
6	物理療法
7	整形外科画像
8	整形外科画像
9	心電図
10	心電図
11	地域包括
12	地域包括
13	研究法
14	研究法
15	医療・福祉について
16	精神保健福祉について
17	地域保健福祉について
18	小児領域の保健福祉について
19	地域リハビリテーション
20	臨床心理学
21	全体の復習 まとめ
22	全体の復習 まとめ
23	全体の復習 まとめ
24	全体の復習 まとめ
25	全体の復習 まとめ
26	全体の復習 まとめ
27	全体の復習 まとめ
28	全体の復習 まとめ
29	全体の復習 まとめ
30	全体の復習 まとめ

評価方法	筆記試験に基づいて学修成果を判定する。
------	---------------------

教科書	
参考書	なし
備 考	自己学習をしっかりと行ってください.

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	生活環境論			担当講師	山神 翔太		
分野	専門	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	病態運動、生活障害を理解する。また疾患別によるADLの実際、環境整備を含め学習する。そして、学習した内容を基礎に臨床実習、理学療法士として円滑に進められることを目的とする。						
到達目標	1. バリアフリーとユニバーサルデザインについて概念と関係する法制度について説明できる。 2. 生活環境について説明できる。 3. 生活環境の課題を把握する評価を実施できる。 3. 生活にかかわる福祉用具（リフト等）について説明できる。 3. ポジショニング・シーティングのポイントを説明し、適切な姿勢を保持させることができる。 4. 臥床姿勢・座位姿勢のチェックが実施できる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	オリエンテーション、生活環境総論						
2	生活環境の評価・整備のプロセス						
3	住環境としての住宅と住宅改修①						
4	住環境としての住宅と住宅改修②						
5	住環境としての住宅と住宅改修③						
6	住環境としての住宅と住宅改修④						
7	生活にかかわる法制度						
8	生活にかかわる法制度						
9	生活にかかわるリハビリテーション機器①（移乗・移動支援）						
10	生活にかかわるリハビリテーション機器②（姿勢管理）						
11	生活環境のバリアフリー①						
12	生活環境のバリアフリー②						
13	公共交通機関のバリアフリー①						
14	公共交通機関のバリアフリー②						
15	公共交通機関のバリアフリー③						
評価方法	課題・発表を加味し総合的に評価をする						
教科書	標準理学療法 専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第5版 医学書院						
参考書							
備 考	※地域理学療法論へとつながる科目です。 ※課題を通してしっかりと理解を深めていってください。提出期限・体裁にはくれぐれも注意すること。						

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	地域理学療法論			担当講師	鈴木 康平		
分 野	専門	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	60 時間	学 年	2年次	学 期	通年
概 要	地域リハビリテーションの概念、実践方法について学習する。 社会のニーズとして地域における保健・福祉の分野における理学療法士の現状と役割を理解し、学習する。 高齢者・障害者にとっての地域生活に重要な介護保険の意義・制度・問題点を述べる。						
到達目標	1. 医療・保健・福祉における理学療法士の役割が理解できる。 2. 地域リハビリテーション・地域理学療法を取り巻く諸制度について説明ができる。 3. 維持期から居宅介護における理学療法と理学療法士の位置づけが説明できる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	前期オリエンテーション， 地域理学療法論概論
2	地域理学療法論概論
3	介護保険制度
4	介護保険制度
5	バリアフリーについて
6	バリアフリーについて
7	災害時の理学療法
8	国際支援における理学療法
9	周辺環境調査
10	周辺環境調査
11	周辺環境調査グループ発表
12	周辺環境調査グループ発表
13	障害者スポーツ
14	障害者スポーツ
15	前期まとめ
16	後期オリエンテーション， 福祉用具
17	国際福祉機器展
18	国際福祉機器展
19	国際福祉機器展グループ発表
20	国際福祉機器展グループ発表
21	北水会デイケア研修
22	北水会デイケア研修
23	北水会デイケア研修
24	北水会デイケア研修
25	北水会デイケア研修
26	北水会デイケア研修
27	北水会デイケア研修

28	北水会デイケア研修
29	デイケア研修グループ発表
30	デイケア研修グループ発表、まとめ
評価方法	出席、発表、レポート等を加味し総合的に評価する
教科書	ビジュアルレクチャー 地域理学療法学
参考書	地域理学療法学 医学書院
備 考	

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	介護予防と自立支援			担当講師	武藤 久司・佐野 安彦		
分野	専門基礎	授業方法	講義・演習	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	後期
概 要	今日の高齢化社会の進行に合わせた医療・保健・福祉の現状、これからの動向を理解し、介護予防と自立支援についてを学習する。						
到達目標	介護予防における理学療法士の役割を理解し、理学療法士として介護予防と自立支援が理解できる。グループワークを通して健康増進事業の理解を含める。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	オリエンテーション
2	介護予防と自立支援・総論
3	介護予防と自立支援の実際
4	障害者入所施設における自立支援①
5	障害者入所施設における自立支援②
6	高齢者施設における介護予防と自立支援①
7	高齢者施設における介護予防と自立支援②
8	コミュニティプロモーション①
9	コミュニティプロモーション②
10	フレイル・サルコペニアに対する介護予防（演習）
11	MCIに対する介護予防（演習）
12	尿失禁に対する介護予防（演習）
13	フレイル・サルコペニアに対する介護予防（演習）
14	MCIに対する介護予防（演習）
15	尿失禁に対する介護予防（演習）

評価方法	発表等を加味し総合的に評価する
教科書	予防理学療法学要論 医歯薬出版 高齢者理学療法学 医歯薬出版
参考書	介護予防マニュアル 法研
備 考	

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	見学実習Ⅰ			担当講師	武藤 久司ほか・理学療法学科教員		
分野	専門	授業方法	実習	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	1単位	時間	45時間	学年	1年次	学期	前期
概要	学内で学んだ基礎分野、専門基礎分野の科目の知識・技術を基盤に、臨床教育者（Clinical Educator：CE）の指導のもとで、理学療法評価、理学療法プログラムの立案、治療を見学・模倣・実施する。 本実習では、臨床での理学療法士の患者への対応等について見学・模倣・実施することで、理学療法業務をイメージする。						
到達目標	社会的ニーズの多様化に対応した臨床的観察力・分析力を養うとともに、治療計画立案能力・実践能力を身につける。各障害、各病期、各年齢層を偏りなく対応できる能力を培う。また、チームの一員として連携の方法を習得し、責任と自覚を培う。 臨床での理学療法士の患者への対応等について見学・模倣・実施する。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
	40時間の実習施設内での実習と、5時間の実習時間外学修で構成される。						
評価方法	授業参加度、意欲、態度、課題等を加味し総合的に評価をする。						
教科書	なし						
参考書	なし						
備考							

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	見学実習Ⅱ			担当講師	武藤 久司ほか・理学療法学科教員		
分野	専門	授業方法	実習	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	45 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	学内で学んだ基礎分野、専門基礎分野、専門分野の科目の知識・技術を基盤に、臨床教育者（Clinical Educator：CE）の指導のもとで、理学療法評価、理学療法プログラムの立案、治療を見学・模倣・実施する。 本実習では、臨床での理学療法士の患者への対応等について見学・模倣・実施することで、理学療法業務をイメージする。						
到達目標	社会的ニーズの多様化に対応した臨床的観察力・分析力を養うとともに、治療計画立案能力・実践能力を身につける。各障害、各病期、各年齢層を偏りなく対応できる能力を培う。また、チームの一員として連携の方法を習得し、責任と自覚を培う。 臨床での理学療法士の患者への対応等について見学・模倣・実施する。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
	40時間の実習施設内での実習と、5時間の実習時間外学修で構成される。						
評価方法	授業参加度、意欲、態度、課題等を加味し総合的に評価をする。						
教科書	なし						
参考書	なし						
備 考							

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	臨床理学療法評価実習			担当講師	武藤久司，他		
分野	専門	授業方法	実習	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	4 単位	時 間	180 時間	学 年	2年次	学 期	後期
概 要	学内で学んだ理学療法専門科目等の知識・技術を基盤に、臨床教育者（Clinical Educator：CE）の指導のもとで、理学療法評価、理学療法プログラムの立案、治療を見学・模倣・実施する。						
到達目標	社会的ニーズの多様化に対応した臨床的観察力・分析力を養うとともに、治療計画立案能力・実践能力を身につける。各障害、各病期、各年齢層を偏りなく対応できる能力を培う。また、チームの一員として連携の方法を習得し、責任と自覚を培う。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
	・144時間の実習施設内での実習と20時間の実習時間外学修、16時間の臨床実習前後の評価で構成される。 ・臨床実習前には学力・実技の確認テストを実施する（診断的評価）。 ・臨床実習後には実技の確認テストを実施する（総括的評価）。						
評価方法	出席、課題、臨床実習後評価等を加味し総合的に評価をする。						
教科書	なし						
参考書	なし						
備 考							

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	臨床理学療法実習Ⅰ			担当講師	武藤久司、他		
分野	専門	授業方法	実習	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	7単位	時間	315時間	学年	3年次	学期	前期
概要	学内で学んだ理学療法専門科目等の知識・技術を基盤に、臨床教育者（Clinical Educator：CE）の指導のもとで、理学療法評価、理学療法プログラムの立案、治療を見学・模倣・実施する。						
到達目標	社会的ニーズの多様化に対応した臨床的観察力・分析力を養うとともに、治療計画立案能力・実践能力を身につける。各障害、各病期、各年齢層を偏りなく対応できる能力を培う。また、チームの一員として連携の方法を習得し、責任と自覚を培う。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
	・264時間の実習施設内での実習と35時間の実習時間外学修、16時間の臨床実習前後の評価で構成される。 ・臨床実習前には学力・実技の確認テストを実施する（診断的評価）。 ・臨床実習後には実技の確認テストを実施する（総括的評価）。						
評価方法	出席、課題、臨床実習後評価等を加味し総合的に評価をする。						
教科書	なし						
参考書	なし						
備考							

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	臨床理学療法実習Ⅱ			担当講師	武藤久司、他		
分野	専門	授業方法	実習	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	7単位	時間	315時間	学年	3年次	学期	後期
概要	学内で学んだ理学療法専門科目等の知識・技術を基盤に、臨床教育者（Clinical Educator：CE）の指導のもとで、理学療法評価、理学療法プログラムの立案、治療を見学・模倣・実施する。						
到達目標	社会的ニーズの多様化に対応した臨床的観察力・分析力を養うとともに、治療計画立案能力・実践能力を身につける。各障害、各病期、各年齢層を偏りなく対応できる能力を培う。また、チームの一員として連携の方法を習得し、責任と自覚を培う。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
	・264時間の実習施設内での実習と35時間の実習時間外学修、16時間の臨床実習前後の評価で構成される。 ・臨床実習前には学力・実技の確認テストを実施する（診断的評価）。 ・臨床実習後には実技の確認テストを実施する（総括的評価）。						
評価方法	出席、課題、臨床実習後評価等を加味し総合的に評価をする。						
教科書	なし						
参考書	なし						
備考							